

社会科学習のゴールである公民を見据え、現代社会につながる歴史的事象や課題の扱いを充実させました。カリキュラム・マネジメントの観点から、教科「社会科」として生徒の資質・能力の育成に取り組めるよう工夫しました。

SDGsでつながる3分野の学び

社会科の目標である、公民的資質の育成を見据えて、地理・歴史・公民の3分野でSDGs(持続可能な開発目標)の視点を取り上げました。歴史学習の最後に位置づけた、現在と未来について考察・構想し表現する活動において、SDGsの17の目標を示すことで、歴史で学んだことを現代の視点から捉えなおして学習を深めるとともに、公民の学習へと接続していけるよう工夫しました。ここでは現代社会の課題の例として、自然災害の記録の継承や、地域の復興に取り組む人々を取り上げました。

good

歴史学習の終わりに

～歴史を振り返って、未来を構想しよう

私たちはこれまで、さまざまな資料を読み解き、東アジアなど日本と関わり深い世界の歴史を学びました。日本の歴史の大きな流れを学んできました。学習の中では、時期や権柄、比較や関連など、歴史的な見方・考え方を活用して、それぞれの時代の特色や、時代の転換もとらえてきました。ここでは、歴史の学習を振り返りながら、これからの私たちの学びや生活に、歴史の学びをどのように生かしていくことができるかを、考えてみましょう。

歴史

現代の課題について、歴史の流れをふまえて考えてみよう

これまでの歴史学習、なかでも「第7章 現代の日本と世界」や、地理の学習から、私たちが生きる現代社会には、市町村など身近な地域の規模・日本という国の規模・国際関係や環境問題など世界の規模で、さまざまな課題が横たわっていることを学びました。私たちは、歴史の流れをふまえて、こうした課題をどのようにとらえることができるでしょうか。歴史に学ぶことで、私たちにも取り組めることが見つかるかもしれません。個人や班で、現代社会的課題の一つを選んで考察し、よりよい未来を開くためにどのようなことが必要かを考えてみましょう。

歴史



目標は、人間(目標1～6)、豊か(目標7～11)、地球(目標12～15)、平和(目標16)、パートナーシップ(目標17)という5つの要素の組み合わせで構成されています。このようにSDGsの目標は、相互に関連し合っています。このようにSDGsの目標は、相互に関連し合っています。このようにSDGsの目標は、相互に関連し合っています。

▲ 歴史 p.289-291

3 地理的な見方・考え方

地理的分野の学習では、次のようなことに気をつけて学習を進めていきましょう。

- ★ 位置や広がり(分布)に注目しているか(どのように広がっているか)
- ★ 自然環境との関わり(なぜ、そのような分布をしているのか)
- ★ 結びつき(その地域は、どのような影響を受けているのか)
- ★ 変化(その地域は、どのような変化を遂げているのか)

地理的課題とSDGs

あなたは、SDGsを知っていますか。SDGsは2016年に国連で採択された、2030年までに国際社会が共有する持続可能な開発目標です。SDGsは17の目標と169のターゲットで構成されています。地理の学習を通して、次に示した17の目標と関連する課題を、考えてみましょう。

SDGs 17の目標の図表。17の目標が色とりどりのアイコンで表示されています。

地理 p.IV

1

歴史的な視点で、過去の長期間における人口の変化を扱い、その中で、明治時代の移民政策を取り上げています。

人口の変化と海外への移民

過去200年の人口の推移、日本の歴史と人口の推移、日本の歴史と人口の推移、日本の歴史と人口の推移。

人口の推移のグラフ。1950年から2020年までの人口増加を示しています。

▲ 歴史 p.202-203

関東大震災による被害や、そこからの復興を扱い、その中で、行政の役割や、人物の働きを取り上げています。

後藤新平と杉原千敏

関東大震災と復興、後藤新平と杉原千敏、後藤新平と杉原千敏、後藤新平と杉原千敏。

震災復興のイメージ写真。被災地の復興の様子や、復興に尽力した人々の姿が写っています。

▲ 歴史 p.238

▲ 歴史 p.280-281

現代社会の課題でつながる3分野の学び

公民としての資質・能力の育成の観点から、現代社会の諸課題についての取り扱いを充実させました。たとえば歴史のp.202～203では明治時代の移民政策から「人口・移民」を、p.238では関東大震災から「震災・復興」を取り上げ、現代史(p.276～283)の学習へとつなげています。これらの内容について、「地理」では世界や日本の人口分布の偏りや、地震のメカニズムや発生地の分布を取り上げ、「公民」では人口減少や少子高齢化の問題や、自然災害と資源・エネルギーとの関わりを取り上げています。「地理」・「公民」での学びと合わせて、生徒が、自分たちが生きる社会について多面的・多角的に考察し、深く理解することができます。

LOOK!

横浜青葉区で発表された津波ハザードマップ。これをもとに、市では防災計画を立て、電柱や建物の壁に海抜(海面から測った陸地の高さ)や避難場所を示したプレートを貼るなど、被災のための社会づくりに努めています。

津波ハザードマップ。津波の浸水範囲や避難場所が示されています。

▲ 地理 p.160, 164

LOOK!

現在、世界各所で、自然を利用したさまざまな再生可能エネルギーによる発電が広がっています。これは、化石燃料に比べて再生可能で、再生できる自然資源として発電できるため、環境への負担が小さいという利点があります。

再生可能エネルギーのイメージ写真。太陽光発電、風力発電、水力発電、バイオマス発電のイメージが写っています。

▲ 公民 p.174, 218

2 小学校・中学校・高等学校の学びのつながりを意識した内容・構成

小学校での人物や文化財中心の学習からスムーズに接続できるように、歴史学習の導入部である第1章をより親しみやすい内容にしました。また、高校での近現代史中心の「歴史総合」にむけて、通史学習の充実を図りました。

小学校での学習からのスムーズな接続を意識した「歴史すごろく」と「歴史にアプローチ」

「歴史すごろく」(p.2~3)では、小学校での人物や文化財を中心とした学習を振り返りながら、それらを歴史の大きな流れの中に位置づける活動を設定しました。遊びの要素を取り入れた、生徒が楽しみながら歴史学習を進めていくきっかけとなる導入です。

「歴史にアプローチ」(p.7~9)は、小学校での社会科学習の進め方や、そこで活用した社会的な見方・考え方を振り返り、さらに中学校での歴史学習の進め方や、見方・考え方、資料活用の方法などを見通せる内容です。

歴史すごろくにチャレンジしよう

歴史学習のはじめに、すごろくを使って、小学校での学習を振り返ってみよう。

歴史すごろくには、小学校の学習で登場した人物や文化財が描かれています。どのような人物や文化財が描かれているか、すごろくのマスに描かれている人物や文化財の役割を思い出しながら、すごろくを進めてみましょう。

1. 歴史すごろくには、さまざまなマスがあります。マスには、1. 2. 3. 4. の4つの種類があります。それぞれのマスには、それぞれの役割があります。

2. 1. のマスには、それぞれの人物が描かれています。1. 2. 3. 4. の4つのマスから、それぞれの人物の役割を思い出しながら、すごろくを進めてみましょう。

第1章 | 歴史のとらえ方・調べ方

1 歴史の流れをとらえよう

1. 縄文土器

2. 弥生時代

3. 古墳時代

4. 奈良時代

5. 平安時代

6. 鎌倉時代

7. 室町時代

8. 徳川時代

9. 幕末

10. 明治時代

11. 大正時代

12. 昭和時代

13. 平成時代

14. 令和時代

1. 縄文土器

2. 弥生時代

3. 古墳時代

4. 奈良時代

5. 平安時代

6. 鎌倉時代

7. 室町時代

8. 徳川時代

9. 幕末

10. 明治時代

11. 大正時代

12. 昭和時代

13. 平成時代

14. 令和時代

▲ p.2-3

歴史にアプローチ ~歴史の見方・考え方と学習の進め方

中学校の歴史学習では、さまざまな資料を読み解き、東アジアなど日本と関わりが深い世界の歴史も学びながら、それぞれの時代の特色をとらえていきます。そして、時代の特色がどのように移り変わったのかに注目することで、日本の歴史の大きな流れを学んでいきます。小学校の学習で身につけた「社会科の見方・考え方」を活用したり、さらに発展させたりして、中学校の歴史学習をより深めていきましょう。

小学校の学習で活用した「社会科の見方・考え方」と「学習の進め方」

時期や変化

場所や広がり

比べる

関連づける

歴史は、小学校の学習で学んだことを、中学校でさらに深めていくためのきっかけです。

歴史は、小学校の学習で学んだことを、中学校でさらに深めていくためのきっかけです。

歴史は、小学校の学習で学んだことを、中学校でさらに深めていくためのきっかけです。

小学校の学習で活用した「社会科の見方・考え方」と「学習の進め方」

時期や変化

場所や広がり

比べる

関連づける

歴史は、小学校の学習で学んだことを、中学校でさらに深めていくためのきっかけです。

歴史は、小学校の学習で学んだことを、中学校でさらに深めていくためのきっかけです。

歴史は、小学校の学習で学んだことを、中学校でさらに深めていくためのきっかけです。

▲ p.7

学習を始めよう ~中世の暮らしと社会~

中世の暮らしと社会について学びます。

中世の暮らしと社会について学びます。

中世の暮らしと社会について学びます。

生徒が取り組みやすい導入ページ

各章の冒頭には、生徒が資料から学習する時代をイメージすることができる「扉」ページと「学習を始めよう」を設けました。生徒が主体的に資料活用に取り組めるよう、資料は大きく掲載しています。特に通史学習の初めにあたる古代の導入(p.17~19)では、教育出版の小学校社会科教科書『小学社会6』に掲載している資料を使用しています。

▲ p.60-61

小学校での学習を想起できるアイコン

小学校での学習で登場した人物には「巻物マーク」をつけて、生徒が小学校での学習を振り返るきっかけになるように工夫しました。

2 織田信長 (1534~82) (長興寺蔵)

重文 小学校

6 鑑真(688~763) (長興寺蔵)

国宝 小学校

▲ p.46, 108

『小学社会』と同じキャラクター

教育出版の小学校社会科教科書『小学社会』に登場する児童キャラクターが、中学生に成長した姿で登場し、学びの連続性や親しみを感じることができます。

ひろと

ゆうま

さくら

あい

高等学校での歴史学習へ

ヨーロッパの動きと武家政治の変化

ヨーロッパの動きと武家政治の変化

ヨーロッパの動きと武家政治の変化

高校「歴史総合」へのつながりを意識した内容構成

高等学校では、近現代の日本と世界の歴史を学ぶ「歴史総合」が必修科目となりました。教育出版の『中学社会歴史』では、古代から現代までの通史学習の中で、日本の歴史の大きな流れと、その背景となる世界の歴史を丁寧に描いています。日本と世界との関係を捉えながら学びを進める歴史学習は、高校での学びにもつながります。

▲ p.72-73



3 自ら学ぶ力を支える紙面・内容の工夫

協働的な学習や自学自習をする際に活用しやすいよう、学び方や調査の進め方を解説するページ、資料ページを充実させました。また、ユニバーサルデザインを取り入れ、すべての生徒が学びやすい教科書を目ざしました。

身近な地域を調べる学習の進め方を示したページ p.10-16

歴史学習の進め方を振り返って確認できるページを充実させ、生徒の自ら学ぶ力への支援ができるような教科書を目ざしました。ほかに「教科書の使い方」(p.II)、「時代の分け方・年表の見方」(p.4~5)、「歴史の見方・考え方と学習の進め方」(p.7~9)などのページを設けています。

2 身近な地域の歴史を調べよう

1 テーマを決めよう 地域にはどんな歴史があるかな

2 情報を集めよう どのよう調べて調べたいかな

3 具体的な調査の課題を決めよう 調べたい情報からどんな課題が見つかるかな

4 調べた情報をまとめる

5 調べた情報をまとめる

6 インターネットを活用しよう

7 インターネットを活用しよう

8 インターネットを活用しよう

9 インターネットを活用しよう

10 歴史のつらさ・面白さ

11 歴史のつらさ・面白さ

12 歴史のつらさ・面白さ

13 身近な地域の歴史

内容の確認や自学自習で活用できる資料ページ 巻末2・3

歴史の大きな流れを見開きで一覧することができる「歴史年表」(巻末2・3)では、できごとの起こった時期を確認するとともに、現代との時間的な距離感を捉えやすいように工夫しています。また、現在の県境とは異なる時代の日本の地域区分や、産業・交通を確認できる「昔の国と、都道府県の対象図」「江戸時代の産業と交通」(巻末1)を設けています。

歴史年表

古代 中世 近世 現代

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

インターネットを活用して学びを広げることができる「まなびリンク」 p.59

各章の「扉」ページに、「まなびリンク」を設けました。弊社の専用ウェブサイトから、学習に役立つさまざまな情報にアクセスすることができます。現在は、各章の学習の中で、調べ学習を広げたり深めたりすることができる外部ウェブサイトへのリンクを掲載しています。

※無料で利用できますが、通信料がかかります。また、端末の操作やインターネットの利用のルール、情報リテラシーについては適宜ご指導ください。

第3章 中世の日本と世界

【中学社会】まなびリンク

【中学社会 歴史 未来をひらく】

各章共通で役立つサイトです。

文化遺産オンライン【文化庁】

国家歴史文化データベース【文化庁】

文化デジタルライブラリー【国立行政法人 日本国立文化館機構】

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

まなびリンク

学習に役立つさまざまな情報を、ウェブサイトで見ることができます。

https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/ml/jy/chiri.html#02

これらから学習する時代

年代	1100	1200	1300	1400	1500	1550
日本	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	戦国時代	
中国	(北宋)	(南宋)	モンゴル・元	明		
朝鮮		高麗		朝鮮		

特別支援やユニバーサルデザインの視点を大切に教科書づくり

教育のユニバーサルデザインの実現にむけ、埼玉大学 名越斉子先生に社会科全体を監修していただきました。より多くの生徒が学びやすいように、レイアウトや配色、書体などの表現を工夫しています。



図やグラフなど、教科書中の表現には、色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインを取り入れています。



本文や注など、教科書中の文章には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。

例えば、吹き出し中の読みやすい改行の工夫。

1 大野城と水城(想像図)

2 水城の断面図(想像図)

なぜ、ここにこのような施設が築かれたのかな。

土壁(幅約80m、高さ約10m)

土(幅約60m、深さ約4m)

11 律令国 帝人の集み

大正の改訂をきっかけに、このしくみはどのように変わっていったのでしょうか。

例えば、強調される場所がわかりやすい配色の工夫。